

# 看護学生の職業に対する意識調査

—開学から3年間の比較—

陣田泰子、竹内文生、井澤方宏、青木康子、加城貴美子、

國岡照子、柴原君江、美田誠二、大江基

## 要旨

看護教育を実践するにあたっては、学生の社会的背景や職業に対する意識等の実態を把握することは重要である。1995年に開学し3年目を迎えた本学において、入学時における学生の、職業に関する意識調査を継続して実施してきた。

調査の内容は、入学の動機、卒業後の進路、看護婦・助産婦・保健婦についての職業イメージ、キャリア発達等について3年間の推移を考察した。なお初年度は、推薦入学制度を実施していなかったが、1996年入学生（以下「96年入学生」という）から新たに推薦入学制度を設けた。

その結果は、1) 3年間の入学生の平均年齢は低下し、通学に要する時間の短縮、他の学校の受験率の低下、看護職希望者の増加等の傾向がみられた。2) 卒業後の進路は、進学希望者が最も多く、3年間継続している。3) 看護婦・助産婦・保健婦に対するイメージでは、平均値によるプロフィールは、3年間を通してほぼ同様のものであった。4) 保健婦のイメージは、3年間ともに平均値が±1.00以内である形容詞が多く、看護婦、助産婦に比し、狭い幅のプロフィールとなっている。5) 進路決定時期は、95年入学生は、高校2年時が最も多いが、96年入学生、97年入学生では、小・中学時の決定が最も多い。6) 職業選択の条件では、各学年とも、働きたい職場の条件の1位は「人間関係のよいところ」であった。7) 職業継続の意志は、95年入学生のみ「結婚しても、子供ができて職業は続けたい」が最も多い。96年入学生及び97年入学生においては、「子供ができたら、一時辞めて、子供の手が離れたら、再就職したい」である。8) 看護婦の職業イメージでは、各学年とも、平均値の最も高いものは「やりがい」、次いで「社会的貢献」であった。職業イメージの悪い項目は、「勤務時間」、「職場の環境」である。9) セルフ・エスチューム（自尊心）では、各学年の総平均値を比較すると、95年入学生は2.36、96年入学生では2.56、97年入学生は2.56であり、95年入学生の平均値が低かった。

キーワード；学生の社会的背景、卒業後の進路、職業イメージ、職業の継続、  
自尊心（Self-Esteem）

## I はじめに

本看護短期大学は、人として成長しながら幅広い視野を持つ看護専門家を育成するという教育理念のもと、平成7年（1995年）4月開学した。

教育を実践するにあたっては、学生の社会的背景や入学の動機、職業に対する意識等の実態を把握することは重要であり、また学習とともにどのように変容し発達してゆくかを科学的に把握することは、学校の運営や教育課程の編成をより効果的に発展させる

要素になる。開学より3年間継続して、以下の項目について調査を行った。

- (1) 主な社会的背景及び入学動機等
- (2) 看護婦、助産婦、保健婦のイメージ
- (3) キャリア発達

1996年入学生（以下「96年入学生」という）から新たに推薦入学制度を設け、16名（入学生80名中）の入学生、1997年では9名が推薦で入学している。出願資格は、川崎市内の高等学校を3月に卒業する

見込みがあり、卒業後は川崎市内に就業する意思があること等が条件となっている。

## II 研究方法

1. 調査対象：3年課程看護短期大学（95年入学生）1年生80名（女子79名、男子1名）、（96年入学生）1年生80名（女子77名、男子3名）、（97年入学生）1年生80名（女子78名、男子2名）を対象として、同意の得られた学生、77名、77名、79名について調査を実施した。回収率は、各々96.3%、96.3%、98.7%であった。

2. 調査日：平成7年7月21日、平成8年4月19日、平成9年4月25日

3. 調査方法：半構成的質問紙調査、集合調査

4. 調査内容：

（1）主な社会的背景及び入学動機等としては、高等学校での課程、受験資格、住居、婚姻関係、家族等に医療関係者の有無、予備校での学習、他の学校の受験状況、本短大を希望した理由、卒業後の進路、希望していた職業の種類、看護職希望の程度

（2）看護職のイメージとしては、看護婦、助産婦、保健婦の各々についてのイメージ

（3）キャリア発達としては、進路決定の時期、職場の選択、職業の継続意志、職場及び看護婦の職業イメージ、ライフスタイル、自尊感情（Self-Esteem）について調査した。

5. 尺度及び用語

（1）SD法

（2）用語の定義：キャリア発達、自尊感情（以下S-E）、ライフスタイルについては、既報<sup>1)</sup>と同様である。

## III 結果及び考察

解答者（以下「97年入学生」という）の平均年齢は、18.4歳（18～24歳）で、20歳未満が全体の93.5%を占めており、推薦入学制度がなかった一昨年度の入学生（以下「95年入学生」という）の19.1歳（18歳～36歳）、83.1%に比較して、昨年度（以下「96年入学生」という）の18.7歳（18～36歳）と同様、多少年齢が若くなっており、推薦入学制度の影響を伺わせる（表1）。

表1 対象者数及び年齢

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	
調査対象者	80(1)		80(3)		80(2)		
回 答 者	77(1)	100.0		100.0	79(1)	100.0	
年	18歳	40	51.9	59	76.6	56	70.9
	19歳	24	31.2	11	14.3	16	20.3
	20歳	5	6.5	1	1.3	4	5.1
	21歳	5	6.5	1	1.3	0	0.0
	22歳	0	0.0	2	2.6	0	0.0
齢	24歳以上	3	3.9	3	3.9	1	1.3
	誤記入	0	0.0	0	0.0	2	2.5
平均年齢	19.1		18.7		18.4		
	(18～36歳)		(18～36歳)		(18～24歳)		

\*（ ）：男子再掲

1. 主な社会的背景及び入学の動機等

1) 高等学校での課程は、普通科が72名（91.1%）、理数科が6名、商業科が1名である。過去2年間で比較して理数科が1名から6名に増加していること、また商業科からの入学生のいることが、97年入学生の特徴といえる。

2) 受験資格は、全員が高等学校卒業であり、大学検定はいなかった。

また、卒業した学校は全員が高等学校で、短期大学以上の学校を卒業した者はいなかった。95年入学生には5名（6.5%）、96年入学生には7名（9.1%）の短期大学以上の学校を卒業した

者がいたこととは様相を異にしている。

3) 現在の住居は、自宅が45名（58.4%）で、95年入学生の43名（55.8%）、96年入学生の47名（61.0%）と大差はない。また、同居者ありが54名、専用の個室ありが56名で、過去の調査とほぼ同様である。

4) 通学に要する時間（片道）は、表2のとおりで、1時間以内が44名（55.7%）、1時間を超える者は35名（44.3%）で、平均は59.1分である。通学に要する時間は、95年入学生の平均は71.7分、96年入学生は55.8分であるので、推薦入学制度導入により、通学に要する時間は短縮の傾

表2 通学時間（片道）

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
30分以内	21	27.3	29	37.7	30	38.0
30分～1時間以内	23	29.9	9	11.7	14	17.7
1時間～1時間30分以内	20	26.0	28	36.4	18	22.8
1時間30分～2時間以内	10	13.0	9	11.7	13	16.5
2時間を超える	3	3.9	2	2.6	3	3.8
平均	71.7分		55.8分		59.1分	
*（再掲；2時間超）	（3時間超：2名）		（2時間30分：1名） （2時間45分：1名）		（2時間10分：1名） （2時間15分：1名） （2時間30分：1名）	

向にあるといえる。しかし、通学時間が2時間を超える者が3名、最高は2時間30分要しており、首都圏の特性とは言え、健康上の配慮が必要であろう<sup>3)</sup>。

- 5) 入学前に就業（就学期間中のアルバイトは除く）したことがあるのは3名、なしは76名で、過去の調査とほぼ同様である。
- 6) 信仰している宗教があるのは3名、なしは70名、記載なしが6名で、過去の調査とほぼ同様である。
- 7) 婚姻関係は、未婚が78名、既婚が1名で、過去の調査とほぼ同様である。
- 8) 家族、親戚、知人の中に医療関係者の居る者は

57名（72.2%）で、95年入学生の46名（59.7%）、96年入学生の39名（50.6%）に比較して多くなっている。その職種別内訳は表2のとおりで、看護職が38名（66.7%）で最も多く、次いで医師・歯科医師が11名、薬剤師が10名の順であり、過去の調査とほぼ同様である。表3のその他の職種としては医療事務4名、看護助手2名、医師会1名、医療短大教員1名等となっている。

#### 9) 看護職を希望するにあたって、

- (1) 最も強く影響を受けたこと等は、表4-1のとおりで、家族の入院が最も多く26名（33.8%）、次いでテレビ・新聞・週刊誌等13名（16.9%）、

表3 医療関係者の有無及びその職種

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
医療関係者なし	31	40.3	38	49.4	22	27.8
医療関係者あり	46	59.7	39	50.4	57	72.2
看護職	34	73.9	30	76.9	38	66.7
医師・歯科医師	8	17.4	6	15.4	11	19.3
薬剤師	6	13.0	5	12.8	10	17.5
理学・作業療法士	4	8.7	0	0	3	5.3
臨床検査技師	3	6.5	3	7.7	1	1.8
診療放射線技師	3	6.5	0	0.0	4	7.0
養護教諭	2	4.3	1	2.8	1	1.8
その他	6	13.0	3	7.7	11	19.3
*その他（再掲）	（言語療法士、介護福祉士、歯科医師、ナース、記載なし2）		（栄養士、獣医師、医療秘書）		（医療事務4、ヘルパー2、看護助手2、鍼灸師、医師会、医療短大）	

表4-1 看護職を希望するにあたって影響を受けたこと

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数（看護職希望者）	72	100.0	75	100.0	77	100.0
一日看護体験	-	-	7	9.3	10	13.0
病気・怪我の体験	-	-	12	16.0	5	6.5
家族の入院	-	-	18	24.0	26	33.8
友人・知人の入院	-	-	3	4.0	3	3.9
テレビ・新聞・週刊誌等	4	5.6	13	17.3	13	16.9
小説・伝記等	-	-	1	1.3	1	1.3
看護職の人と接して	-	-	9	12.0	11	14.3
その他	-	-	9	12.0	6	7.8
*その他（再掲）			（自分の入院、ボランティア、資格がほしいので、不景気だから、自分の適性、昔から気付いていた）		（ボランティア活動で、海外青年協力隊、母に勧められ、姉が看護学生なので、なんとなく、先生の勧め）	

表 4-2 看護職を希望するにあたって影響を受けた人

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	72	100.0	75	100.0	77	100.0
父親	1	1.4	3	4.0	5	6.5
母親	15	20.8	14	18.7	18	23.4
兄弟・姉妹	6	8.3	3	4.0	2	2.6
祖父母	5	6.9	5	6.7	11	14.3
親戚	8	11.1	8	10.7	3	3.9
教員（先生）	2	2.8	6	8.0	5	6.5
友人・知人	9	12.5	13	17.3	10	13.0
その他	19	26.4	21	28.0	19	24.7
記載なし	3	4.2	2	2.7	4	5.2
*その他（再掲）	（自分で決めた12、特になし 4）		（自分で決めた 4、特になし 2、分からない、看護婦をみて 8、記述なし 6）		（自分で決めた 5、特になし 4、なし 4、看護婦をみて 2、海外のボランティア、曾祖母、記述なし 2）	

看護職の人と接して11名（14.3%）、一日看護体験10名（13.0%）である。96年入学生に比較して家族の入院18名（23.4%）、一日看護体験7名（9.1%）が多くなっている。

(2) 最も強く影響を受けた人は、表4-2のとおりで、母親18名（23.4%）が最も多く、次いで祖父母11名（14.3%）、友人・知人10名（13.0%）となっている。父親（5名）や教員（5名）からは、看護職を希望するにあたって、大きな影響は受けていないようである。何れも過去の調査とほぼ同様である。また、その他として、自分で決めた5名、特になし4名、なし4名の記

述があり、特定の人の影響がないのか、自分から希望したという意識が強いのか、設問が適切でなかったのか、今後とも動機づけ把握の観点から、検討したい。

10) 進学のための予備校での学習は、ありが52名（65.8%）、なしが27名（34.2%）である。学習分野は看護専門19名（36.5%）、理系コース15名（28.8%）、医療関係13名（25.0%）である。いずれも過去の調査とほぼ同様である。

11) 他の学校の受験状況は、推薦入学以外は全員が他の学校を受験しており、その内訳は、表5-1のとおりで、短期大学を受験しているのが最

表 5-1 他の学校の受験状況（複数回答）

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
他の学校を受験しない	0	0.0	17	22.1	9	11.4
他の学校を受験した	77	100.0	60	77.9	70	88.6
四年制大学	46	59.7	31	51.7	40	57.1
短期大学	65	84.4	42	54.5	63	90.0
専門学校	46	59.7	37	48.1	47	67.1
その他	0	0.0	0	0.0	1	1.4
*その他（再掲）					（自衛隊）	

表 5-2 複数受験した学校の組み合わせ

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
当短期大学のみ	0	0.0	17	22.1	9	11.4
四年制大学のみ	4	5.2	6	7.8	5	6.3
短期大学のみ	3	3.9	4	5.2	5	6.3
四年制大学と短期大学	23	29.9	18	23.4	13	16.5
四年制大学と専門学校	1	1.3	7	9.1	1	1.3
短期大学と専門学校	21	27.3	20	26.0	24	30.4
四年制大学、短期大学、専門学校	18	23.4	5	6.5	21	26.6
専門学校のみのみ	0	0.0	0	0.0	1	1.3

も多く70名中63名(90.0%)、次いで専門学校47名(61.4%)、四年制大学40名(57.1%)で、過去の調査とほぼ同様である。

複数受験した学校の組合せは、表5-2のとおりで、学生の受験行動は短期大学と四年制大学を受験した群(23名、32.8%)短期大学と専門学校を受験した群(25名、35.7%)、短期大学と四年制大学それに専門学校を受験した群(21名、30.0%)の3群に概略区分できる。97年入学生は第三の群が多く、表9の「看護職になることを強く希望する」が増加していることと関係があると思われる。

12) 本短大についての情報入手は、表6のとおりで、受験雑誌が最も多く56名(70.9%)、次いで教員(先生)16名(20.3%)、先輩・知人・友

人11名(13.9%)の順である。それぞれ過去の調査に比し増加しているのは、本学が開設してから3年目に入ったためと思われる。

13) 本短大を希望した理由は、表7のとおりで、「公立で学費が比較的高額でないから」が72名(91.1%)で最も多く、次いで「看護系専門学校より短大のほうに魅力があるから」44名(55.7%)、「受験科目が自分に相応していたから」28名(35.4%)、「新しい短大だから」26名(32.9%)、「学力が自分に相応していたから」25名(31.6%)の順である。全体として、本学の選択理由は「新設の公立短大」、「学力が相応」ということが大きな理由で、過去の調査とほぼ同様である。

14) 卒業後の進路については、表8-1のとおりで、進学志望者が46名(58.2%)、卒業後看護婦と

表6 本短大についての情報の入手先(複数回答)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
教員(先生)	11	14.3	14	18.2	16	20.3
先輩・知人・友人	0	0.0	8	10.4	11	13.9
家族	8	10.4	7	9.1	4	5.1
受験雑誌	48	62.3	50	64.9	56	70.9
進路オリエンテーション	2	2.6	6	7.8	2	2.5
新聞	7	9.1	2	2.6	0	0.0
予備校	10	13.0	17	22.1	10	12.7
その他	3	3.9	2	2.6	3	3.8

表7 本短大を希望した理由(複数回答)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
自宅から通学できるから	23	29.9	33	42.9	23	29.1
近くに親戚が住んでいるから	3	3.9	8	10.4	7	8.9
公立で学費が比較的高額でないから	63	81.8	67	87.0	72	91.1
四年制大学に進学しなかったが家族の事情が許さない	5	6.5	4	5.2	7	8.9
受験科目が自分に相応していたから	36	46.8	32	41.6	28	35.4
学力が自分に相応していたから	16	20.8	32	41.6	25	31.6
両親や先生が勧めてくれたから	10	13.0	14	18.2	10	12.7
先輩・友人・知人が勧めてくれたから	-	-	1	1.3	4	5.1
本短大の学校案内の教育内容をみて	15	19.5	28	36.4	23	29.1
新しい短大だから	28	36.4	30	39.0	26	32.9
看護系専門学校より短大のほうに魅力があるから	42	54.5	48	62.3	44	55.7
いくつかの学校を受験したが、合格したのはこの短大だけ	26	33.8	11	14.3	22	27.8
ただなんとなく受験してみた	7	9.1	1	1.3	2	2.5
その他	7	9.1	3	3.9	3	3.8
*その他(再掲)	(川崎市民だから2、川崎という場所で)				(学校が自宅に近い、自分に合っている、川崎という場所で)	

表8-1 卒業後の進路

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
看護婦として就職	17	22.1	24	31.2	19	24.1
進学する	42	54.5	35	45.5	46	58.2
まだ決めてない	17	22.1	16	20.8	14	17.7
その他	1	1.3	2	2.6	0	0.0

表 8-2 進学希望分野

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
進学希望者	42	100.0	35	100.0	46	100.0
保健婦課程	24	57.1	17	48.6	14	30.4
助産婦課程	14	33.3	9	25.7	12	26.1
養護教諭課程	5	11.9	3	8.6	8	17.4
看護系大学への編入	20	47.6	11	31.4	17	37.0
その他(看護系以外)の大学編入	5	11.9	3	8.6	0	0.0
外国留学	6	14.3	1	2.9	2	4.3
その他	4	9.5	0	0.0	1	2.2
*その他(再掲)	(他の大学へ入学、 視能訓練士、 言語・視能訓練士、 専門学校)				(視能訓練士)	

して就職するが19名(24.1%)、まだ決めていないが14名(17.2%)である。過去の調査でも全体として進学志望者が多く、しかもそれが増加の傾向にあるが、今後、経過をみる必要がある。

進学希望分野は、表8-2のとおりで、看護系大学への編入が17名(37.0%)で最も多く、次いで保健婦課程14名(30.4%)、助産婦課程の12名(26.1%)の順になっている。過去の調査とほぼ同様の傾向にある。

15) 本短大を受験するまでに希望していた職業の種類を、第3希望まで求めた結果は、表9のと

おりである。看護職希望が77名(97.5%)で圧倒的に多く、その内容は保健婦26名、助産婦20名、看護婦39名である。次いで養護教諭17名(21.5%)、薬剤師11名(13.9%)、保育9名(11.4%)の順である。その他として、カウンセラー、司書、視能訓練士、調理師、建築デザイナー、芸能人、イルカの調教師、フラワーコーディネーター等を記述しており、若者の世相を反映しているものと思われる。全体として、過去の調査とほぼ同様の傾向にある。

16) 看護職希望の程度は表10のとおりである。

表 9 本短大を受験するまでに希望していた職業(第3希望まで)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
看護職	69	89.6	75	97.4	77	97.5
保健婦	-	-	22	28.6	26	32.9
助産婦	-	-	9	11.7	20	25.3
看護婦	-	-	43	55.8	39	49.4
医師・歯科医師	5	6.5	6	7.8	4	5.1
薬剤師	9	11.7	16	20.8	11	13.9
臨床検査技師	7	9.1	6	7.8	8	10.1
理学・作業療法士	8	10.4	8	10.4	8	10.1
診療放射線技師	2	2.6	2	2.6	2	2.5
視能訓練士	3	3.9	0	0.0	2	2.5
養護教諭	12	15.6	18	23.4	17	21.5
栄養士	11	14.3	6	7.8	5	6.3
歯科衛生士	1	1.3	0	0.0	3	3.8
介護福祉士	3	3.9	10	13.0	3	3.8
保育	15	19.5	10	13.0	9	11.4
教員	12	15.6	12	15.6	6	7.6
獣医師	2	2.6	5	6.5	4	5.1
その他	10	13.0	9	11.7	8	10.1
*その他(再掲)	(視能訓練士 2、 鍼灸師、会社員 2、 研究所、機械関係、 美術関係、経済学部、 料理店、特になし 2)		(言語療法士、司書、 カウンセラー 2、 音楽関係、警察官、 スチュワーデス)		(カウンセラー、司書、 調理師、視能訓練士、 建築デザイン、芸能人、 ホステス、女優、 イルカ調教師、 フラワーコーディネーター)	

表 10 看護職希望の程度

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0
看護職になることを希望していた	69	89.6	75	94.9	77	97.5
看護職になることを強く希望	34	44.2	37	48.1	42	53.2
できれば看護職になりたかった	15	19.5	15	19.5	17	21.5
なんとなく看護職を考えていた	19	24.7	22	28.6	18	22.8
記載なし	1	1.3	1	1.3	0	0.0
看護職になることを希望していなかった	8	10.4	2	2.6	2	2.5

表 11 中心点から離れた形容詞の比較

		看 護 婦			助 産 婦			保 健 婦		
		件数	平均値	標準偏差	件数	平均値	標準偏差	件数	平均値	標準偏差
好き	嫌い	79	1.7975	1.0952	79	1.4684	1.3391	78	1.1154	1.1981
やばったい	しゃれた	79	-0.0380	0.7194	79	0.0253	0.9675	78	0.0385	0.9260
特色のある	ありきたりな	79	2.2405	0.9170	79	2.1899	1.0800	78	1.2051	1.3336
つまらない	楽しい	79	-1.2532	1.0490	78	-1.4744	1.0709	77	-0.7922	1.3323
親しみやすい	親しみにくい	79	1.2911	1.4768	79	1.1266	1.7311	78	1.0385	1.6443
うすっぺらな	深みのある	79	-2.4051	0.9212	79	-2.1266	0.9328	78	-1.2564	1.2551
美しい	醜い	79	0.9367	1.2462	79	1.2025	1.2364	78	0.5128	1.0221
粗野な	洗練された	79	-1.3418	1.3013	79	-1.3038	1.3812	78	-0.9487	1.2184
わかりにくい	わかりやすい	79	-0.1519	1.5186	79	-0.5696	1.4380	78	0.0000	1.5525
動的な	静的な	78	1.9103	1.4692	79	1.5696	1.4468	78	0.6795	1.6832
暗い	明るい	79	-1.3671	1.3138	79	-1.5696	1.2395	78	-0.9615	1.3052
強い	弱い	79	2.2152	0.8954	79	2.0127	1.0849	78	1.0000	1.2506
繊細な	大胆な	79	0.4051	1.6498	79	-0.3418	2.0182	78	0.0769	1.3566
地味な	派手な	79	0.6329	1.0575	79	0.2911	0.9828	78	0.8974	1.0812
のんびりした	はりつめた	79	-2.1266	0.8768	79	-1.5063	1.4745	78	0.6538	1.2177
つめたい	あたたかい	79	-2.1646	1.1073	79	-2.3924	0.9059	78	-1.4872	1.2785
軽い	重い	79	-1.5696	1.2496	79	-1.5823	1.2181	78	-0.5897	1.1259
淡い	鮮やかな	78	-0.2949	1.1559	79	-0.6456	1.3598	78	0.1026	1.0202
固い	柔らかい	79	-0.5974	1.2088	79	-1.1772	1.1447	77	-0.8182	1.2245
不安定な	安定した	78	-0.5641	1.5980	79	-0.8101	1.5350	78	-1.3077	1.1358
大きい	小さい	79	1.2658	1.1982	79	1.3544	1.2733	78	0.7949	1.1363
複雑な	単純な	79	2.1899	0.9557	79	1.2911	1.3885	78	0.7051	1.2101
狭い	広い	79	-1.5949	1.2681	78	-1.1410	1.3656	78	-1.2564	1.2029
現実的な	幻想的な	79	2.2532	1.1303	79	1.6582	1.4831	78	1.6410	1.2297

表 12

得点値 平 均	看 護 婦			助 産 婦			保 健 婦		
	95年	96年	97年	95年	96年	97年	95年	96年	97年
± 1 以内	10	7	8	13	5	6	19	16	15
± 1 以上	13	11	9	8	15	14	5	8	9
± 2 以上	1	6	7	3	4	4	0	0	0
計	24	24	24	24	24	24	24	24	24

表 13

看護婦		97年度入学生		96年度入学生		95年度入学生	
言語対		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
好き	嫌い	-1.7975	1.0952	-1.6883	1.2195	1.0800	1.3141
やばったい	しゃれた	0.0380	0.7194	0.2763	1.0336	0.0395	0.6578
特色のある	ありきたりな	-2.2405	0.9170	-2.0000	1.0811	1.7237	1.2732
つまらない	楽しい	1.2532	1.0490	1.2632	1.0683	-0.8289	0.9650
親しみやすい	親しみにくい	-1.2911	1.4768	-1.3766	1.2997	0.6053	1.4517
うすっぺらな	深みのある	2.4051	0.9212	2.0921	1.1376	-2.0658	1.0923
美しい	醜い	0.9367	1.2462	-1.0658	1.0923	0.6842	1.0908
粗野な	洗練された	1.3418	1.3013	1.3816	1.1467	-0.8684	1.1043
わかりにくい	わかりやすい	0.1519	1.5186	0.3684	1.3557	0.0789	1.2852
動的な	静的な	-1.9103	1.4692	-1.7632	1.2447	2.3289	0.8490
暗い	明るい	1.3671	1.3138	1.5395	1.0935	-1.0132	1.2193
強い	弱い	-2.2152	0.8954	-2.1184	1.0256	1.9605	0.9520
繊細な	大胆な	-0.4051	1.6498	-0.2895	1.7000	0.1053	1.3820
地味な	派手な	-0.6329	1.0575	-0.5921	1.0904	0.5000	1.1180
のんびりした	はりつめた	2.1266	0.8768	1.9079	0.9484	-1.8947	1.0334
つめたい	あたたかい	2.1646	1.1073	1.9481	1.0432	-1.5000	1.2722
軽い	重い	1.5696	1.2496	1.5395	1.1521	-1.4474	1.2814
淡い	鮮やかな	0.2949	1.1559	0.1447	1.3446	-0.3684	1.0367
固い	柔らかい	0.5974	1.2088	0.7600	1.3647	-0.4459	1.4533
不安定な	安定した	0.5641	1.5980	0.8158	1.5787	-0.4868	1.5686
大きい	小さい	-1.2658	1.1982	-1.2763	1.2835	0.9868	1.0821
複雑な	単純な	-2.1899	0.9557	-1.9610	0.9458	1.7237	1.0711
狭い	広い	1.5949	1.2681	1.4079	1.3686	-0.6974	1.6142
現実的な	幻想的な	-2.2532	1.1303	-2.2338	1.0918	2.1974	0.9179

表 14

助産婦		97年度入学生		96年度入学生		95年度入学生	
言語対		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
好き	嫌い	-1.4684	1.3391	-1.1053	1.2309	0.8182	1.3165
やばったい	しゃれた	-0.0253	0.9675	-0.0132	0.9933	0.1299	0.8429
特色のある	ありきたりな	-2.1899	1.0800	-2.0000	1.1810	1.8947	1.3036
つまらない	楽しい	1.4744	1.0709	1.3600	1.2611	-1.3117	1.1079
親しみやすい	親しみにくい	-1.1266	1.7311	-1.4211	1.2593	1.1558	1.4689
うすっぺらな	深みのある	2.1266	0.9828	1.9474	1.0869	-1.8701	1.0972
美しい	醜い	-1.2025	1.2364	-1.0658	1.1847	0.8961	1.2123
粗野な	洗練された	1.3038	1.3812	1.6184	1.1117	-1.1429	1.2454
わかりにくい	わかりやすい	0.5696	1.4380	0.5000	1.4824	-0.3247	1.4091
動的な	静的な	-1.5696	1.4468	-1.1711	1.7044	1.6447	1.1777
暗い	明るい	1.5696	1.2395	1.6842	1.3398	-1.1429	1.2030
強い	弱い	-2.0127	1.0849	-2.1053	0.9676	1.7532	0.9691
繊細な	大胆な	0.3418	2.0182	-0.1053	2.0299	-0.3377	1.6246
地味な	派手な	-0.2911	0.9828	-0.4054	1.2183	0.4675	0.9057
のんびりした	はりつめた	1.5063	1.4745	1.2105	1.3890	-1.1184	1.4232
つめたい	あたたかい	2.3924	0.9059	2.2763	0.8208	-2.1039	1.0517
軽い	重い	1.5823	1.2181	1.3026	1.1923	-1.2468	1.2290
淡い	鮮やかな	0.6456	1.3598	0.6842	1.3496	-0.3766	1.2172
固い	柔らかい	1.1772	1.1447	1.4211	1.2276	-1.1948	1.2591
不安定な	安定した	0.8101	1.5350	1.0395	1.4459	-0.8571	1.2137
大きい	小さい	-1.3544	1.2733	-1.3289	1.4454	1.5526	1.1854
複雑な	単純な	-1.2911	1.3885	-1.3766	1.3961	0.8312	1.3133
狭い	広い	1.1410	1.3656	1.1316	1.3213	-0.7922	1.3612
現実的な	幻想的な	-1.6582	1.4831	-1.7662	1.5110	1.7013	1.2281



表 15

保健婦	言語対	97年度入学生		96年度入学生		95年度入学生	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
好き	嫌い	-1.1154	1.1981	-1.2400	1.1758	0.8442	1.2175
やばったい	しゃれた	-0.0385	0.9260	0.0526	1.1109	0.0260	1.0316
特色のある	ありきたりな	-1.2051	1.3336	-0.9870	1.3142	1.1039	1.1797
つまらない	楽しい	0.7922	1.3323	0.7895	1.4078	-0.4545	1.2226
親しみやすい	親しみにくい	-1.0385	1.6443	-1.1974	1.5306	0.6623	1.5171
うすっぺらな	深みのある	1.2564	1.2551	1.1974	1.2672	-1.0519	1.1498
美しい	醜い	-0.5128	1.0221	-0.6184	0.9027	0.3766	0.7736
粗野な	洗練された	0.9487	1.2184	1.0000	1.1585	-0.7922	0.9581
わかりにくい	わかりやすい	0.0000	1.5525	-0.0909	1.4962	0.0263	1.1695
動的な	静的な	-0.6795	1.6832	-0.3947	1.5566	0.4935	1.3922
暗い	明るい	0.9615	1.3052	0.7763	1.4654	-0.7403	1.1777
強い	弱い	-1.0000	1.2506	-1.0526	1.1909	0.8571	0.9496
繊細な	大胆な	-0.0769	1.3566	-0.1316	1.3987	0.0390	0.9320
地味な	派手な	-0.8974	1.0812	-0.8684	1.2705	0.7273	0.9485
のんびりした	はりつめた	-0.6538	1.2177	-0.7237	1.3338	0.4026	1.1762
つめたい	あたたかい	1.4872	1.2785	1.3947	1.2986	-1.1429	1.1921
軽い	重い	0.5897	1.1259	0.4737	1.0696	-0.4805	0.9343
淡い	鮮やかな	-0.1026	1.0202	0.0000	1.1239	-0.0909	0.9000
固い	柔らかい	0.8182	1.2245	0.3684	1.3362	-0.2987	1.3490
不安定な	安定した	1.3077	1.1358	1.2895	1.2959	-1.3117	1.2301
大きい	小さい	-0.7949	1.1363	-0.6447	1.3446	0.7922	1.0731
複雑な	単純な	-0.7051	1.2101	-0.6623	1.4014	0.5455	1.2119
狭い	広い	1.2564	1.2029	0.8289	1.5337	-0.9091	1.3693
現実的な	幻想的な	-1.6410	1.2297	-1.8701	1.1436	1.6234	1.0816

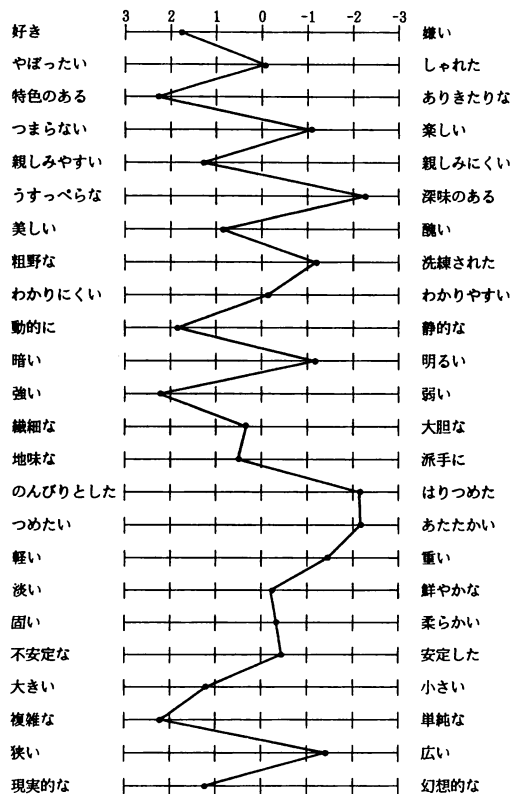


図 1 看護婦イメージ

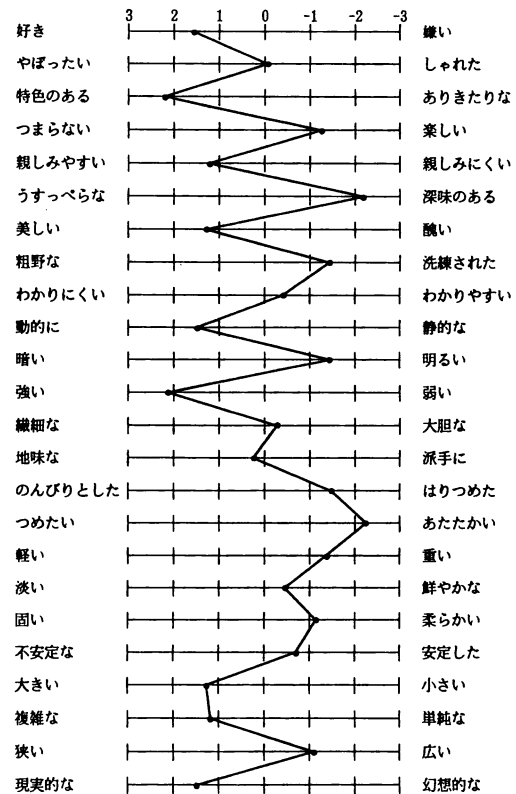


図 2 助産婦イメージ

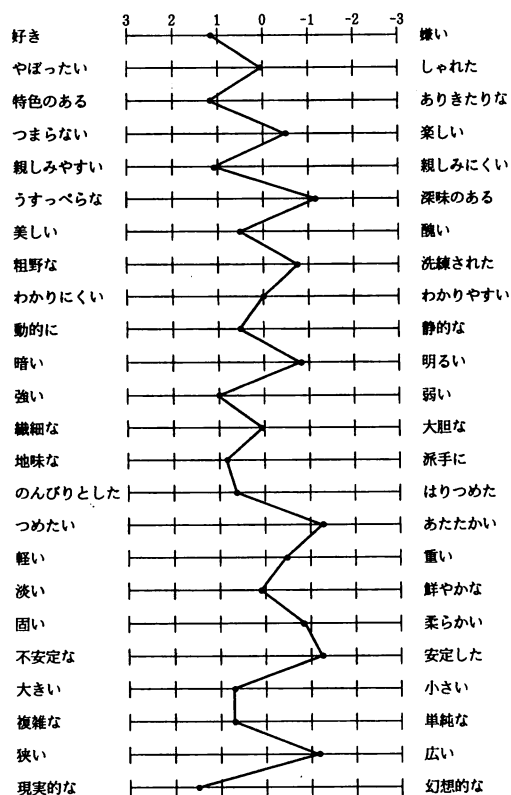


図3 保健婦イメージ

本短大を受験するまでに「看護職になること強く希望していた」のは42名(53.1%)、「できれば看護職になりたかった」は17名(21.5%)、「なんとなく看護職を考えていた」は18名(22.7%)である。過去の調査に比較して「強く希望」している者が増加の傾向にある。真に目的意識の強い

者が増加しているのか経過を見る必要があろう。また、看護職になることを希望していなかった者が2名いるが学年の進捗とともに、卒業後の進路等にどのような変化があるか注目する必要がある。

## 2. 看護婦・助産婦・保健婦のイメージ

- 1) 97年入学生の看護婦・助産婦・保健婦各々に対するイメージの測定値の平均は、表11の通りである。平均値のプロフィールは、図1、図2、図3の様な形を示し、95年入学生、96年入学とほぼ同様のプロフィールである。
- 2) 各年入学生の尺度の中心点から±1以上平均値が距離をもつ形容詞は、表12の通りである。
- 3) プロフィールの形で特徴的なことは、表13～15及び図1、図2、図3にみられるように、保健婦は看護婦や助産婦に比し、少ない幅の中にイメージが納まっている。
- 4) 各年の入学生の中心点より距離のある形容詞の上位5は、表16のとおりである。特徴的なことは看護婦、助産婦については、各年の入学生共にほぼ同じ形容詞で占められている。保健婦はバラエティーに富み、看護婦、助産婦にはみられない「安定した」が、各学年にみられる。
- 5) 各年の入学生の中心点に近い距離にある形容詞の上位5位は、表17のとおりであり、各年の入学生共にほとんど変わらない形容詞となっている。

表16 中心点から離れた形容詞

n=24

		看護婦	助産婦	保健婦
1位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	あたたかい 現実的な 深みのある	現実的な あたたかい あたたかい	現実的な 現実的な 現実的な
2位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	特色のある 強い 現実的な	動的な 強い 特色のある	安定した あたたかい あたたかい
3位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	深みのある 特色のある 特色のある	深みのある 特色のある 深みのある	あたたかい 安定した 安定した
4位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	強い 複雑な 強い	強い 深みのある 強い	特色のある 好き 深みのある
5位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	現実的な あたたかい 複雑な	はりつめた 現実的な 現実的な	深みのある 親しみやすい 特色のある

以上のことから考察されることは、

- 1) 各年の入学生の看護婦、助産婦、保健婦についてのプロフィールに大差ないこと、中心点から離れている形容詞、中心点に近い形容詞共に各年ほぼ共通していることから、各年の入学生の背景に多少の違いがあっても、入学当初の看護職に対するイメージは共通していると考えられる。
- 2) 保健婦のイメージは、各年の入学生共に、少ない幅の中にプロフィールが納まっており、「安定した」が看護婦、助産婦に比べ、上位に位置していることは、保健所や健康管理室などで活躍し、夜勤がない等の一般的な概念でイメージしていると推測される。
3. キャリア発達
  - 1) 進路決定の時期；97年入学生の進路決定時

期は、中学生の時が最も多く24.1%であり、次いで高校2年生がほぼ同数の24%である。高校1年と3年も同数の17.7%であった。95年入学生及び96年入学生と3年間の比較してみると(表18)、小・中学時決定者では、大きな変化はないが、小・中学時決定者と、高校1年時決定者を加えてみると、95年入学生では、37.7%であり、96年入学生は41.6%、97年入学生は50.6%になり、95年入学生とは、12.9%の差がみられる。進路の決定時期は年々早くなっており、この原因は、本学は1995年開校のため、情報伝達の不十分さなどが徐々に改善されてきたことが考えられる。なお、その他、の時期は、ほとんどが予備校等の受験直前の進路決定であり、97年入学生が最も少ない。

表 17 中心点に近い形容詞

n=24

		看護婦	助産婦	保健婦
1位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	やぼったい・しゃれた 淡い・鮮やかな やぼったい・しゃれた	やぼったい・しゃれた やぼったい・しゃれた やぼったい・しゃれた	やぼったい・しゃれた 淡い・鮮やかな わかりにくい・わかりやすい
2位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	わかりにくい・わかりやすい やぼったい・しゃれた わかりにくい・わかりやすい	わかりにくい・わかりやすい 繊細な・大胆な 地味な・派手な	わかりにくい・わかりやすい やぼったい・しゃれた やぼったい・しゃれた
3位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	繊細な・大胆な 繊細な・大胆な 淡い・鮮やかな	繊細な・大胆な 地味な・派手な 繊細な・大胆な	繊細な・大胆な わかりにくい・わかりやすい 繊細な・大胆な
4位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	淡い・鮮やかな わかりにくい・わかりやすい 繊細な・大胆な	淡い・鮮やかな わかりにくい・わかりやすい わかりにくい・わかりやすい	淡い・鮮やかな 繊細な・大胆な 淡い・鮮やかな
5位	95年入学生 96年入学生 97年入学生	地味な・派手な 地味な・派手な 不安定・安定した	固い・柔らかい 淡い・鮮やかな 淡い・鮮やかな	固い・柔らかい 固い・柔らかい 好き・嫌い

表 18 進路決定の時期

	95年入学		96年入学		97年入学	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
小中学生	19	24.7	27	35.1	26	32.9
高校1年生	10	13.0	5	6.5	14	17.7
高校2年生	20	26.0	21	27.3	19	24.1
高校3年生	16	20.8	14	18.2	14	17.7
その他	12	15.6	10	13.0	6	7.6
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0

2) 職業選択の条件；表19のように「働きたい職場の条件」における97年入学生の結果は、「人間関係のよい所」が最も多く44.3%であり、次に「自分のやりたい看護ができる」と続く。これは、96年入学生、95年入学生とも変わらない傾向であり、一般看護婦の職業選択の条件と同様の傾向を示す。

3) 職業継続の意志；97年入学生の職業継続の意志は、「子供ができたら一時やめて子供の手が離れたら再就職する」が最も多く71.8%、次に「結婚しても、子供ができて職業を続けたい」が21.8%であった。3年間の入学時における職業継続の意志を比較検討してみると、表20のように95年入学生では「結婚しても、子供ができて職業は続けたい」が51.9%と最も多い。しかし、96年及び97年入学生では「子供ができた

ら一時辞めて、子供の手が離れたら再就職したい」が1位となり、次いで「結婚しても、子供ができて職業を続けたい」となっている。更に「結婚しても、子供ができて職業を続けたい」の意志を持っている学生は、年々減少傾向にある。女性の社会進出とキャリア志向の意気は年々高まっている中のこの結果は、その理由の究明が必要と考える。

4) 看護婦の職業イメージ；97年入学生の、看護婦の職業イメージは、最も高得点は「やりがい」であり、次に社会的貢献の順になっている。反対に看護婦の職業イメージの悪いものは、勤務時間、職場の環境、である。これらは、表21のように各学年とも変わらない傾向を示す。

5) S・E；97年入学生の結果は、表22のようであった。各年入学生の総平均値を比較すると、

表19 働きたい職場の条件

	97年入学生	
	人数	構成比(%)
給料が高い	4	5.1
学習・研究ができる	4	5.1
休暇が取れる	7	8.9
人間関係がよい	35	44.3
自分のやりたい看護ができる	28	35.4
その他	1	1.3
総数	79	100.0

表20 職業継続の意思

	総数		95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	232	100.0	77	100.0	77	100.0	79	100.0
結婚しても子供ができるまで続けたい	14	6.0	4	5.2	8	10.4	2	2.6
子供ができたら一時辞めて手が離れたら再就職したい	125	53.9	30	39.0	39	50.6	56	71.8
結婚しても、子供ができて職業を続けたい	83	35.8	40	51.9	26	33.8	17	21.8
わからない	8	3.4	3	3.9	4	5.2	1	1.3

表21 看護婦の職業イメージ

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
賃金・収入	3.01	±1.28	3.03	±1.29	3.20	±1.19
仕事の将来性	3.84	±1.15	4.44	±0.80	4.57	±0.66
勤務時間	1.58	±0.75	1.71	±0.93	1.57	±0.66
仕事の内容	2.81	±1.33	3.20	±1.08	3.01	±1.15
職場の環境	2.54	±0.92	2.92	±0.88	2.72	±1.00
社会的な評価	2.81	±1.33	3.19	±1.29	3.38	±1.27
仕事の専門性	4.13	±0.96	4.41	±0.93	4.59	±0.64
社会的貢献	4.55	±0.67	4.75	±0.54	4.82	±0.41
やりがい	4.70	±0.56	4.87	±0.52	4.92	±0.30
職場の人間関係	2.54	±0.75	3.33	±0.88	3.15	±0.91

表 22 自尊感情

n=78

	97年入学生							
	そう		ややそう		やや違う		違う	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
私はすべての点で自分に満足している	1	1.2	18	23	39	50	20	25.6
私は時々自分がまるでだめだと思う	12	15.4	37	47.4	22	28.2	7	8.9
私は自分にはいくつか見どころがあると思っている	12	15.4	44	56.4	19	24.3	3	3.8
私はたいていの人がやれる程度には物事ができる	17	21.8	43	55.1	13	16.7	4	5.1
私はあまり得意に思うことがない	7	8.9	30	38.5	31	39.7	10	12.8
私は時々、たしかに自分が約立たずだと感じる	9	11.5	45	57.6	17	21.8	6	7.6
私は少なくとも、自分が他人と同じレベルに立つだけの価値のある人間だと思う	14	17.9	47	60.2	17	21.8	0	0
もう少し自分を尊敬できたならばと思う	27	34.6	36	46.1	13	16.7	2	2.5
いつでも自分を失敗者だと思いがちだ	3	3.8	18	23	41	52.5	16	20.5
私は自分に対して前向きな態度をとっている	21	30	41	52.5	16	20.5	0	0

95年入学生は2.36、96年入学生は2.53、97年入学生は2.56となり、95年入学生の平均得点の低下が認められた。明確な理由は不明であるが、開学年度であるという点の影響が考えられる。また、低得点群（19点以下）、通常得点群（20～29）、高得点群（30点以上）の3群に別けてみると、やはり95年入学生は、高得点群より低得点群の方が多く、96年入学生、97年入学生と異なる結果が見られた。（表23）

#### IV まとめ

昨年（1996年）に引き続き、開学（1995年）以来3年間にわたって、本短大の1年生を対象として、主な社会的背景及び卒業後の進路、職業イメージ（看護婦・助産婦・保健婦についてのイメージ）、キャリア発達について調査を行った。対象は、95年入学生80名（女子79名、男子1名）、96年入学生80名（女子77名、男子3名）、97年入学生80名（女子78名、男子2名）で、回答率は各々96.3%、96.3%、98.7%であった。96年入学生から新たに推薦入学制度を設け、96年には16名、97年には9名が推薦で入学している。

1. 95年入学生に比較して、96年及び97年入学生は平均年齢が低下し、20歳未満の占める割合が増加し、若年化の傾向がみられる。推薦入学制度の影響を伺わせる。

2. 高等学校での課程は、普通科が最も多いが、96年入学生以降は理数科が増加し、97年入学生には商業科からの入学生がいる。
3. 自宅からの通学者の割合には大きな変化はないが、通学に要する時間は、96年入学生以後は短縮の傾向がみられ推薦入学制度の影響を伺わせる。しかし、通学時間が2時間以上の者がおり、健康上の配慮が必要であろう。
4. 家族・親戚・知人の中に医療関係者の居る者は、97年入学生で72.2%、看護職が最も多く、これまでの調査に比較して増加の傾向にある。
5. 看護職を希望するにあたって、強く影響を受けたことは、家族の入院が最も多く、次いでテレビ・新聞・週刊誌等である。また最も強く影響を受けた人は、母親、次いで祖父母、友人・知人の順になっている。
6. 他の学校の受験状況は、短期大学が最も多く、次いで専門学校、四年制大学の順である。
7. 看護職希望の程度は、「看護職になることを強く希望していた」が53.1%で、過去の調査に比較して年々増加の傾向にある。看護職になることを希望していなかった者が、97年入学生にも2名おり、学年の進行とともに、卒業後の進路などにどのような変化があるか注目する必要がある。
8. 看護婦・助産婦・保健婦のプロフィールは、各年入学生とも類似し、入学当初の各々に対する

表 23 S・E 群分け得点

	95年入学生		96年入学生		97年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	78	100.0
低得点群（19点以下）	21	27.3	9	11.7	7	9.0
通常得点群（20～29点）	42	54.5	51	66.2	57	73.1
高得点群（30点以上）	14	18.2	17	22.1	14	17.9

イメージは共通している。

9. 保健婦のプロフィールは、看護婦、助産婦に比し、狭い幅の中に収まっている点で共通している。
10. 中心点より距離のある形容詞の上位5位は、各年入学生ともに多少の順位変動や、一、二、形容詞が入れ替わっているが、ほぼ同じである。特徴的なこととして、「安定した」が保健婦について各年の入学生にみられているのに対して、看護婦、助産婦には全くみられないことがあげられる。
11. 進路決定時期は、小・中学時の早期決定群は、96年入学生が多い。小・中学時と高校1年時を合わせた数値でみると、95年入学生が37.7%、96年入学生が41.6%、97年入学生では50.6%となり、年々進路決定が早くなっている傾向にある。
12. 職業選択の条件は、各入学年次とも、最も働きたい職場の条件は、人間関係のよいところであった。

13. 職業継続の意思は、95年入学生のみ「結婚して子供ができてでも職業は続けたい」が最も多く、96年・97年入学生では、「子供ができたら、一時辞めて、手が離れたら再就職したい」が多い。職業継続意志は、年々増加傾向にある。

14. 看護婦の職業イメージでは、各年ともに、平均値の最も高い項目は「やりがい」、次いで「社会的貢献」であり、得点の低い項目は、「勤務時間」、「職場の環境」であった。

15. S・Eでは、総得点の平均値は、95年入学生2.36、96年入学生2.52、97年入学生2.56で、95年入学生の平均得点の低下が認められた。

## V おわりに

開学以来、3年間継続して、本学入学当初の学生の職業に対する意識等を調査し、入学年次による変化を知ることができた。今後、どのように変容・発達していくか追跡調査を実施し、教育課程の編成や指導方法の改善の資料として活用したい。

## 参考文献

- 1) 井澤方宏ほか；看護学生の職業に対する意識調査、川崎市立看護短期大学紀要、1 (1)、pp. 1-12、1996
- 2) 青木康子ほか；看護学生の職業に対する意識調査—入学年次よりの比較—、川崎市立看護短期大学紀要、2 (1)、1997
- 3) 國岡照子ほか；学生の保健行動に関する研究—健康観、医療についての関心度、理解度、日常行動—、川崎市立看護短期大学紀要、1 (1)、pp.13-21、1996
- 4) 松村恵子、青木康子；看護学生における助産婦志望の背景、日本助産婦会誌、8 (2)、pp.77-80、1995
- 5) 永田忠夫；S.D.法による「看護婦」のイメージ分析、愛知県立看護短期大学雑誌、PP.77-86、1978
- 6) 日本看護協会編；看護白書、平成9年版、日本看護協会出版会、1997
- 7) 日本看護協会編；病院看護職員の離職・定着に関する調査研究、日本看護協会調査研究報告、日本看護協会出版会、1994

# A Study on Nursing Students' Vocational Consciousness

— Three-year comparative studies since the school foundation —

Yasuko ZINDA, Fumio TAKEUCHI, Masahiro ISAWA, Yasuko AOKI, Kimiko KASIRO

Teruko KUNIOKA, Kimie SHIBAHARA, Seiji MITA, Motoi OE

In the actual undertakings of nursing education, we consider it important to grasp the realities of the students' social backgrounds and vocational awareness. We have conducted yearly questionnaire surveys on the students of our college at the time of entrance for the past three years starting from 1995. Our studies centered on the students' levels of vocational awareness of their professions. The contents of the surveys included: ① Students' motives of applying for the college. ② Their postgraduate career images of such professions as nursing, midwifery or public health nursing. ③ Their potentials for career development. The analysis was done to find out any changes during these three years. We have to note that an admission through a recommendation system was not available for the first year applicants. This system was adopted to students starting 1996. (hereafter be called '96 students).

The results were as in the following.

- ① The average age of the students lowered year by year. A decreasing tendency was observed in the time of commuting, and in the percentage of students who also took entrance examinations to other colleges. There was an increasing tendency in the number of students wishing to enter the world of nursing.
- ② The greatest percentage of students wished to proceed to higher education after graduation. This tendency was observed among students at every year of our surveys.
- ③ Images of nurses, midwives, or public health nurses as estimated by average profile values maintained nearly the same during the past three years.
- ④ The average value concerning the image of public health nurses as represented by the adjectives was roughly within the range of  $\pm 1.00$ , which was smaller than those of nurses or midwives.
- ⑤ Most of the '95 students decided their vocational careers in the 2nd year of high school; however, most of both '96 students and '97 students decided their vocational careers as early as during elementary and junior high schools.
- ⑥ The first priority in their choice of work sites was "good human relationship".
- ⑦ The greatest percentage of '95 students answered that they would like to continue working even after marriage or having children. On the other hand both '96 and '97 students answered that they wanted to quit their job temporarily if they had children and start working again when their children were grown up.
- ⑧ Among the variables relating to vocational images, the average score of 'worth-while job' ranked the first and 'contributing to society' ranked the second for every year of our surveys. Such variables as 'working hours' and 'work environment' were found to be related to the worst image.
- ⑨ The average scores representing students' self-esteem were 2.36, 2.56, and 2.56 for '95, '96 and '97 students respectively, showing that '95 students had lower scores.